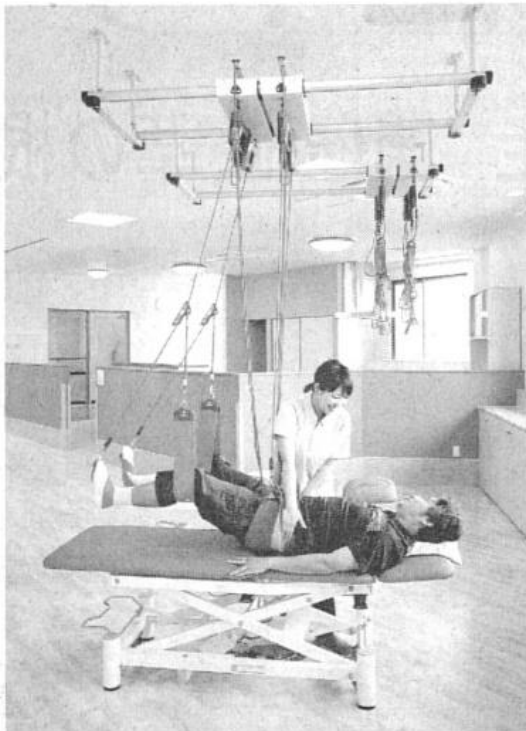


# 職員1.5倍の300人、手厚く

## 戸田中央リハビリテーション病院

首都圏を中心に29病院を運営する戸田中央医科グループ(TMG、埼玉県戸田市)は11月、本部近くの戸田中央リハビリテーション病院を新築移転する。病床数を129から200に増やし、最新のリハビリ機器も導入する。高齡化の進展で需要が高まる回復期医療

の提供体制を強化し、地域の住民の安心につなげる。現在のリハ病院から南西に約1・6キロの場所に移転し、10月5日に竣工式典を開く。地上6階建てで、延べ床面積は従来比2・4倍の8091平方メートル。職員は医師6人と理学療法士59人を含め1・5倍の計302



最新式の機器でリハビリに取り組みやすくする(戸田市)

## 新築移転、きょう竣工式

人と手厚い体制になる。1階のリハビリテーション室には最新式の機器をそろえる。例えば、自転車をこぎながら前方モニターで「脳トレ」の問題を解く「コグニバイク」。有酸素運動と認知機能訓練を同時にできる機器で、リハビリ病院での設置は珍しいという。つり下がったひもを使い、負荷を自在に設定してストレッチや筋力強化ができる「レッドコード」も2機備える。

患者が在宅復帰後に支障なく生活できるよう、居住空間を想定した設備も特徴だ。ベランダを再現した一面では、日常生活で負担が大きい布団干しの練習ができる。ドアを3方向に取り付けたトイレも設置し、自宅と同じ環境を選んで訓練できるようにする。病室が入る2・5階もフロアごとに専有のリハビリスペースや言語療法室を設けるほか、屋上には砂利道や段差、飛び石など様々な地面を整備。患者の回復度合いに応じた段階的な歩行練習ができるようにし、戸外の一般道路での訓練に備えてもらう。

現在のリハ病院はTMG本部や戸田中央総合病院の近くにあるが、病床数が足りずに回復期の患者をすくりに受け入れられない事態も出ているという。増床と設備の充実を通じて患者や家族の不安を払拭し、早期の在宅復帰を後押しする。